

救急研修標準テキスト

監修：日本救急医学会

編集：島崎修次，浅井康文，有賀 徹，杉本 壽，前川剛志，
益子邦洋，行岡哲男

＜書評者＞ 相川直樹（慶應義塾大学教授・救急医学/慶應義塾大学病院長）

平成 16 年に始まった「医師臨床研修制度」の 2 年間の研修を修了した一期生が，18 年にはいよいよ医籍に登録される。

筆者は「医道審議会医師臨床研修検討部会」の委員として本制度構築に参画したが，「将来の専門性にかかわらず，2 年間の臨床研修に専念し，プライマリ・ケアの基本的診療能力を身につけ，医師としての人格を涵養する」という基本構想から，内科，外科，ならびに救急医療（麻酔を含む）が「基礎研修科目」となったことは，わが国の臨床医育成にとって重要な改革であったと思っている。

救急患者は，既往歴や現病歴が不明で来院時から重症であることが多く，診断と治療に緊急を要する。診断と治療とを並行して進める必要があり，時に，緊急手術など，突然の治療方針変更を決断し

なければならない。インフォームド・コンセントを得られない患者や，家族との連絡が取れないことも多く，届出や法的手続を要する傷病が多いことなど，救急現場では，内科や外科の患者への対応とは異なる対応が求められる。

救急医療の研修が始まってみると，研修にはさまざまな問題があることが浮き彫りとなった。救急医療を体系づけて指導することのできる「救急科専門医」などの専任の医師がいない研修施設では，急遽，救急医療の研修指導者を確保する必要が生じた。さらに問題となったのは，「研修医向けのテキスト」がなかったことである。

すでに，医学書院からは『標準救急医学』と『救急レジデントマニュアル』という救急専門書が発行され，改訂を重ねているが，この度「日本救急医学会監修」によ

り上梓された『救急研修標準テキスト』は，医師臨床研修制度に則した救急医療の研修を効率よく行うことを目標として編集された点で，研修現場では使いやすいテキストであり，医学部を卒業したての研修医向けに書かれている良書である。

執筆者は日本救急医学会の会員で，専任で臨床現場に従事している中堅の救急科専門医が多い。医師になりたての研修医に先ず何を教えなければならないかを心得た執筆者たちによる各章は，具体性に富んでいる。特に，VI 章「頻度の高い症状の診断と対処」，VII 章「緊急を要する病態とその初期治療」は，まさに，新臨床研修制度が求めている，「幅広い基礎的診療能力を有する臨床医の育成」に必須の知識が集約された研修指導書となっている点で，高く評価したい。

●B5 頁 420 2005 年
定価 5,880 円
(本体 5,600 円＋税 5%)
[ISBN4-260-00067-5]
医学書院 刊